

平成 2 9 年度の教育活動等に対する学校評価書

平成 30 年 4 月 2 日

学校法人沼津音羽学園沼津あすなろ幼稚園 園 長 長 倉 史 男  
同学校関係者評価委員会 委員長 菅 野 佳 子

- 1 沼津あすなろ幼稚園の教育目標 心の古里を作ろう  
2 本年度の重点目標 ○自然に親しむ子 ○創造性豊かな子 ○思いやりのある子 ○逞しさのある子  
3 自己評価に対する学校関係者評価

※自己評価は、A（十分に成果が上がった）、B（成果があった）、C（少し成果があった）、D（成果がなかった）で表す

評 価 対 象	評 価 項 目	自 己 評 価		学校関係者評価委員会	
		評価点	幼稚園としての反省と改善策	評価点	意 見
自然に親しむ	園庭や園の自然環境に進んで触れさせる	B	○散歩に行き、草花・虫によく触れることができた。（3） <b>□片浜北公園のような大きい公園にもっといける機会を作りたい。</b> ○園庭の野菜の生長を見たり触れたりすることにより植物に興味を持った。ヒヤシンス、チューリップの開花を楽しみにしている。 ○別宮さんへの散歩で、ドングリやバッタ、木の実に触れることができた。チューリップに毎日水をあげ生長を楽しみにしていた。 <b>▲お散歩に行くのが難しくなり、自然に触れられる時間が減った。（2）</b> <b>□お散歩をこれからどうするかを考えたい。</b>	B	
	季節に応じた保育を通して自然の様子や変化に気づかせる	B	○夏野菜を育てたり、チューリップ、ヒヤシンスを育てたりして、季節によって育つものが違う事を伝えることができた。（2） ○お皿に水を入れ氷づくりを楽しんだ。紅葉した葉を見つけたり、葉の上のテントウムシの幼虫を見つけたりした。 ○できるだけ外で遊んで気温の変化や自分の体温変化に気づくようにした。 ○春夏秋冬それぞれに合った保育を子どもと一緒に楽しんだ。（2） <b>▲吐く息の白さについては気づけたが不十分。</b>	A	通年、行事がたくさんあってよかったと思う。
	子どもが見つけた自然の様子を保育に活かそうとする	C	○霜柱を見つけ、一緒に踏んだり冷たさを感じたりすることはできた。 ○ピーマンやチューリップ、ヒヤシンスの生長を、予想などしながらみんなで見守っていった。 ○子どもが見つけた自然を見ることで興味や関心を持つまではいったが、保育に活かすまでは到達できなかった。 <b>▲外で見つけたことを共に喜ぶことはできたが、保育に取り入れることはあまりできなかった。</b> <b>□壁面の導入などで身近な自然を取り入れればよかったと思う。</b> <b>□もっと一緒になって自然を見られれば良かった。</b>	C	虫など捕まえて持って帰ってきても、死んでしまっていることが多いので、命の大切さを教えてほしい。
	自然を生かしたあそびを紹介する	C	○つゆ草やアサガオの花での色水づくり。ねこじゃらしの手工品などを紹介した。 ○図鑑を見て何を探すのかを決めて探検ごっこをしたり、砂場のおままごとに葉や木の実を使うことができた。 <b>▲調べたことを言葉でしか伝えられなかった。絵や図にして見せたり、実際に体験させたりすればよかった。</b> <b>▲なかなかできなかったので来年は意識していきたい。（3）</b> <b>▲運動遊びに集中して取り組んでいたためあまり生かすことができなかった。</b>	C	どろんこ遊びなどを増やしてほしい。
創造性豊かな子	運動会・発表会等の取り組みの中で個々の特性を見つけ伸ばす	A	○一人一人の力が出せるよう、個々にあった見せ所を考えた。どちらも自分の目標に向かってできていた。 ○運動会、発表会の練習の中で、一人一人が日々成長でき、一人一人の良さを見つけることができた。（2） ○人前に立って演技することで一人一人自信をもって演技できるようになった。 ○個々の様子を見ながらその子に合った立ち位置、動きを考えながら遊戯を進めていった。 ○踊りや大きな声を出すことが苦手だった子たちだが、練習の成果が出せた。 ○クラスでのまとまりを感じることができ、個々を見てほめることができた。 ○踊りや歌の練習をする中で、一人一人の得意な部分に気づき、褒めて励ましていき、クラス全体にも影響を与えることができた。	A	とてもよかったと思います。
	子どもの発想を尊重したり引き出したりする保育を心がける	B	○「どうしたらいいかな」と、常に問いかけをする雰囲気づくりをし、子どもが発言できる場を作った。→話し合いができるようになった。 ○子どもだけで意見を言い合ったり、それをまとめたりする場を設け、話し合いが進められるようにしてきた。成長が見られた。 ○普段の会話などの中では、子どもたちの発想をほめたり聞いてあげたりすることはできた。 ○子どもたちだけで話し合って物事を決めることが少しずつでき始めている。 ○子どもへの投げかけを多く取り入れた。一人一人の声に耳を傾けた。（3）	B	

	言葉の発達や言葉への関心を高めたりするような保育や環境づくりをする	B	○「あいうえお表」の活用をした。絵で表すことが多くなってしまったので言葉（文字）をもっと取り入れればよかった。 ○ことばとかずを行う際、「あいうえお表」を全員で読み上げてから行ったり、しりとりなどをして楽しく学べるようにした。 ○自分の名前を書く機会を徐々に増やしたり、ひらがなで黒板に文字を書いて説明することも増やしてみた。 ○キンダーブックや絵本の読み聞かせを通して、文字に興味を持たせた。 ○子どもとコミュニケーションをとるとき、わかりやすい言葉、ジェスチャー、絵を見せること等を心掛けた。 ○保育者だけでなく、クラスの友達とも話す機会を設けた。	B	
	五感を使って遊んだり、ものを作ったり描いたりする楽しさを沢山味わわせる	B	○廃材遊びをし、自由に作りたいものを作ったり、思うように作れなかったりといろんな感情を経験できた。 ○様々な制作で様々な技法ができるように考え、行った。 ○壁面作りを通して、家庭ではできないこと（絵の具を使ってスタンプ、染めをする等）を行った。（3） ○指先を使って遊んだり、花や葉っぱの匂いをかいだりして遊べた。 ○空き時間はお絵かきを多く取り入れた。（2）	A	
	体の動きや音楽的な表現を楽しむ遊びを大切にする	B	○行事ではたくさん表現遊びを楽しむことができた。→他ではあまりできなかった。□ <b>リトミック的な活動時間を作ってみたい。</b> ○発表会、運動会では表現を楽しむことができたと思う。クラスでは手遊びや表現遊びをする機会も作った。 ○発表会の練習では最後まで飽きることなく楽しく行うことができた。また、本番を終えると達成感を味わうことができた。 ○生活発表会の活動を通し、様々な曲を聞かせ、動きを身に付け、楽しんだ。 ○行事でのフォークダンスや各月の歌を取り入れることで、音楽を通して行事や季節に親しむことができた。手遊びを友達同士でやっている場面も見られた。 ▲もっとリトミック的なものを取り入れたかった。	B	
思いやりのある子	動物グループの活動を積極的に進める	A	○グループ活動を通して異年齢の関わり合いがより深まった。（3） ○毎年同じ内容だが、多くのそういった行事があることでたくさんの関わりを見ることができた。これからも続けていきたいと思う。 ○二人組で何かをするとき、ペアづくりを子ども達で手を繋げる時もあったが、保育者が子どもの様子を見て意図的にペアを作るとよい関係が作られることもあった。 ○異年齢で協力することを体験し、進められた。 ▲年少児に手がかかる子がいて、そちらにかかりきりになってしまった。	A	動物グループの活動の様子を写真などでも知りたい。
	自由遊びの時間を確保し子ども同士が触れあえるようにする	B	○保育者がいなくても子ども同士で話し合い、遊びを進めることができていた。 ○朝、昼と友達同士で誘い合う様子が見られた。カード系が始まるとそればかりになりがちだが、その区別がなかなか難しいと感じた。 ○朝の好きな遊びの時間は子ども同士で遊ぶが、トラブル、入れて、貸して等何かあると子ども同士で解決するようになってきた。 ○部屋の中ではたくさん時間を作ることができたが、外では不十分だった。 ○子ども同士での関わりが増えた。（2） ▲給食の時間が遅れてしまい午後の好きな遊びの時間が減ってしまった。	A	
	学年の枠にとらわれない保育を意図的に採り入れる	C	○リレーや散歩など触れ合う機会をもった。もっと多くの時間を作ってあげたかった。 ○リレーを一緒にやったため、いつもと違う雰囲気を味わえた。 ▲決まった行事では多く関わりがあったが、その他給食を一緒に食べるということなどがあまりできなかった。（2） ▲動物グループや行事以外ではあまり取り入れることができなかったが、リレー等を見て皆で応援することはできた。	B	
	子どもが絵本好きになるように時間を確保したり環境を整えたりする	B	○読書週間の時期に毎日5分間自分で絵本を読む時間を作った。次の日に続きを読む子もいて雰囲気が良かった。 ○新しい絵本は一度読み聞かせをした後は、いつでも読めるように黒板のところへ置くようにした。また朝3～5分間の読書の時間を設け、集中する力をつけることができた。 ○給食後は「絵本の時間」にしたり、「絵本を見る日」に見た本はクラスでも見たりするようにした。 ○空いている時間に紙芝居や絵本をできるだけ読むように心がけた。（2） ▲もっといろいろな絵本を見る機会を設けたかった。	B	
	協力や助け合いを引き出すような学級運営を心がける	A	○困っている友達がいたら手を貸すだけでなく言葉で教えてあげる大切さを伝えた。 ○お当番に限らず、お手伝いや代表等で一人一人に役割を与えたことで、お互いを信頼できる雰囲気を作ることができたと思う。 ○誰かが困っているとき「○○ちゃんが困っているよ」と声を掛けたり、友達にやさしい行いをしたときは、褒めたり感謝の気持ちを伝えた。 ○できた子にできない子のお手伝いを願うことで助け合いができた。 ○「同じグループの友達が困っていたら助けてあげてね」というような声掛けをしていたので、周りを見て助け合う姿がよく見られた。 ▲もう少しリーダーシップをとれるような声掛けをすべきだった。	A	

逞しさのある子	遊びの中でも体力や体の動かし方が身に付くように配慮する	A	○ドッジボールではボールの投げ方、捕り方等を教え、ドッジボールという遊びの楽しさを伝えることができた。（２） ○ステップの様々な動き（カニ歩き、後ろ歩き、スキップなど）に挑戦し、参観日に行った。 ○毎日運動遊びを取り入れたことで体の使い方が身についた。 ○マラソン後の朝の活動では、リレーやスキップ、鉄棒等を行い体を動かすことができた。	A	
	カードを利用するなどして目標を持ちやすくしたり自ら運動しようとする雰囲気を高めたりする	A	○「できるようにになりたい」気持ちをもって一生懸命取り組む子が多くいた。（中にはカードを終わらせたいだけという子もいた） ○カードを利用したことで個々の目標が明確になり、子どもたちもそれに向かって練習を重ねる姿を見ることができた。 ○クラス全体が意欲的に取り組み、向上心のある雰囲気作りができた。 ○メダリストを目指して自ら目標をもって取り組む子が増えた。 ○年少児はまだ取り入れていないが、カードを頑張る年中長児を見て、手渡しや鉄棒に自ら触れる子がいた。 ▲運動にもっと興味を持たせられるようにしたかった。	A	運動カードを終わらせた子に、さらなる運動カードを作ってほしい。
	いろいろな運動遊びを紹介する	B	○定番な遊びは紹介し実践できたが、もっと新しい遊びにも挑戦したかった。 ○例年同様ドッジボールや様々な鬼ごっこを行ったが、その他の新しい遊びを紹介することはしなかった。 ○運動会では組体操を工夫し、体を動かす遊びをクラスでも行うよう心掛けた。 ○参観日では保護者と一緒に運動遊びを行い家庭との連携もとることができた。 ○転がしドッジボール、しっぽ取りゲーム等集団で行う遊びを行った。 ○追いかっこだけでなく影踏みやスキップ等の遊びを伝え取り組んだ。 ▲同じ運動になりがちになってしまった。	B	
	食に関心を持たせマナーやバランスのよい食事にも配慮する	B	○就学に向けて「時間内に食べる」ことを意識させた。また、食べることが早すぎな子へは「○分まではよく噛んで食べる」と約束を作った。 ○カードを用いて完食を目指したり、食事中にも「三角食べ」「ひじをつかない」「椅子の向き」等にも気をつけるよう伝えた。 ○まだ年少なので食べられる量が少ないため、初めは量を減らし食べたら増やしていった。少しでも頑張れたらたくさん褒めてきた。 ○苦手なものにも挑戦する子が増えた。交互食べができるように努めた。 ▲時間に間に合わなかったり嫌いなものを残したりする子が多かったため、励まして自信をつけられるようにしたがもっと声掛けを工夫したかった。	B	
	友だちが少ない子や孤立しがちな子の支援を心がける	B	○全員揃ったら物事を始めたりして「クラスみんなで」という雰囲気を常に意識してきた。→自然と声を掛け合うようになった。 ○子どもたち自らクラスの人数を確認し声を掛け合う姿があった。（クラスで円を作る際など） ○孤立しがちな子が少なかったが声掛けは心掛けた。（２） ○まず保育者と１対１でコミュニケーションを取りながら、次に他の友達と一緒に遊んだり個々の子どもの気持ちを代弁してきた。 ○保育者も遊びの中に入り孤立しがちな子も誘って関わりを持てるようにした。	B	
	継続して運動に取り組むような体制作りをする	B	○カードという目標があることで毎日継続して取り組む子が増えた。カードに頼りすぎてしまったことは反省。 ○運動カード以外の雲梯や鉄棒の遊び方を教え、興味を持たせるようにした。 ○朝の体操終了後積極的に鉄棒等と一緒に取り組んだ。 ○鉄棒の難易度を徐々に上げていき、達成感を味わえるようにした。 ○鉄棒や手渡しでは「もう一回」という子も増え、それを見守り少しずつできていることを共に喜び向上心を持てるようにした。 □カードで難しい技があるとやめてしまう子が何人かいた。カードの技の難易度をもう一度確認するのも良いと思う。	B	
平成30年度に向けての改善策				上記以外の意見（抜粋）	
☆保護者のニーズを的確に把握して園運営に積極的に反映させる。 ☆月1回の避難訓練を今後も継続、深化させる。具体的な問題点を洗い出し、職員が共通理解を深めていく。そのことにより、より安全で安心できる避難の方法を積み上げる。さあに、マンネリ化防止の対策を一考する。 ☆朝の体操、持久走は多くの改善がなされたが、更に個に応じた細かい配慮をし今後も継続して取り組み、基本的生活習慣の確立と体力の向上を図る。 ☆運動カードなどを通して運動機能の発達や体力の向上に資することができた。個に合わせたペースや指導法などについて工夫すると共に指導が前のめりにならないよう発達段階に十分配慮する。 ☆食育を意識したカリキュラムの推進・食事（給食）の摂り方を考え、健康の保持・増進により一層努める。 ☆カリキュラムの反省を常時行い、新しい試みを積極的に採り入れる。新幼稚園要領の理解を深め保育に活かしていく。 ☆保育者の指導力向上と園としての保育水準向上のため、園内研修に積極的に取り組む。さらに外部の研修会への積極的な参加を促す。 ☆預かり保育の充実を図りつつ利用についてその利便性を高める。				☆子どもの怒られた報告ばかりでなく、頑張っていたことなども教えてもらえるとうれしい。 ☆給食の量を学年ごとに見直してほしい。（お米など増やす） ☆外階段に手すりが欲しい。 ☆お別れ遠足を雪見遠足にこだわらなくてもよいのではないか。（用品など持っていない子もいるので） ☆お泊り保育をやってほしい。	